

2024-25  
第26 回例会  
2025.3.5

国際ロータリー第 2530 地区 県北第一分区

# 福島南ロータリークラブ会報

会員 76 名中 51 名出席 67.11% 修正 60 名 78.95%メイクアップ 9 名

例会会場/ウエディング・エルティ TEL 024-535-6188 毎週水曜日 12 : 30



## ◆会長あいさつ 赤間浩一会長

皆様改めましてこんにちは。

まずはお越し下さいましたお客様をご紹介致します。

米山記念奨学生 呉 佳洛(ゴ・カラク)さん です。

ようこそお越しくださり、誠にありがとうございます。

早いもので、米山奨学生終了証の授与という事になっております。クラブの皆さんが応援していますので、ロータリーでの出会いや経験を活かし、夢をかなえて頂きたいと思っております。

今日は、地区からポリオ・プラス・ソサエティへの入会のお願いが来ておりますので、ご案内させていただきます。

このポリオ・プラス・ソサエティとは、ポリオ根絶までの安定した活動資金を確保するために、ロータリー財団の『ポリオプラス基金』へ毎年100米ドル以上の寄付を約束した会員と言う事になります。

現在当クラブには4名の登録者がおりますが、2530地区では今年度100名の登録を目標とされておるので、登録を申し込みたいと思った方はクラブの事務局へ申し出て下さい。

で、このポリオプラスに関しましてポリオと言う単語は何となく分かると思います。ポリオと言う病気です、日本では一般的に小児麻痺と言われている病気です。ポリオウィルスに感染してもほとんどの人は発症せずに過ごしてしまうようで、一部のケースとして神経に影響を及ぼし麻痺を起こすことがあると言う病気だそうです。

かかると治療法が無いので、ワクチンによって、ならない様な対策をするしかないそうですし、発症しない人が沢山いる中で、保菌者を見分ける事が現実的に不可能と言う事ですので、永続的にワクチンを接種する事が重要だと言う事になると思います。

では、ポリオプラスのプラスとは何なんでしょう？

プラスは、ポリオ予防接種に付随する様々な支援活動を表しているとの事です。

ポリオ予防接種の重要性を広めるための教育や、安全かつ効率的に予防接種を行うための医療機関や機材の提供、またポリオ以外の疾患予防や健康増進活動も行っている様です。

具体的には、伝染病への感染率を引き下げるためにビタミンAを提供したり

また、ロータリーのエンドポリオの専用ホームページにはポリオプラスの「プラス」がもたらす恩恵と言う記事がありました。

記事ではナイジェリアでポリオの後遺症を持っている方が、ロータリーの補助金で得た手動の三輪車によって、今まで家畜の餌を買いに行くときに掛かっていた交通費を別な必需品の購入に充てることが出来るようになり生活が新しくなったと書いてあります。

これ以外にも記事がありましたので、会報にリンクを貼りけたいと考えておりますので、是非読んで頂きたいと思っております。

今日は、クラブの新会員オリエンテーションの時にポリオプラスについて宿題を頂いておりまし



たので、少しでもご理解が深まれば幸いです。

本日は、以上で挨拶とさせていただきます。ありがとう御座いました。

[ポリオプラスの「プラス」がもたらす恩恵 | End Polio](#) ←Ctrl キーを押しながらクリックしてください

## ◆誕生祝



渡邊啓道会員、小野アヤ子会員、佐藤重幸会員、齋藤高裕会員、渡辺勇会員、宍戸清和会員  
鈴木洋子会員、高橋勇雄会員、清水武会員、一條浩孝会員、藤橋進一郎会員

## ◆米山奨学金及び米山奨学生終了証授与



MC 吳 佳洛さん (ゴ・カラク)

福島大学修士課程2年生

出身地 中国 四川省

奨学生になって、もう1年が経ちました。この1年は私にとって本当にかけがえのない時間でした。ちょうど1年前、奨学生に選ばれたと知った瞬間の喜びは、今でも

はっきりと覚えています。まるで昨日のことのようです。

「日本に来て一番良かったことは何ですか？」と聞かれたら、「奨学生に選ばれたこと、そしてロータリーの皆様と出会えたこと」と迷わず答えます。ロータリーのおかげで、さまざまな国の友達ができました。異文化に触れたり、さまざまな活動に参加したりする中で、自分の視野が広がったと感じています。

この1年間、さまざまな活動に参加し、中国では体験できなかったことをたくさん経験しました。例えば、相馬野馬追や飯坂の祭りに参加したことで、日本の伝統文化に触れる機会に恵まれ、特に印象的でした。また、卓話や毎月の例会でスピーチをさせていた



米山奨学生カウンセラーへの感謝状贈呈

だいたいで、日本語も少しずつ上達しました。最初は緊張していましたが、回を重ねるごとに自信が付き、言葉だけでなく、人前で自分の考えを伝える力も身についたと感じています。

ロータリーで経験したすべてのことは、一生忘れられない思い出です。この1年間は、私にとって宝物のような時間でした。皆様からいただいた温かいご支援や励ましの言葉があったからこそ、ここまで成長できたのだと思います。

これからも、皆様からいただいた温かいご支援を忘れずに、自分の夢に向かって歩いていきます。そして、いつか私も誰かの力になれるよう、努力を続けたいと思います。

## ◆会員スピーチ 横山りつ子会員 ロータリーのマジック 女性による自衛隊協力会 花ももの会とは

福島駐屯地は1953年10月に開庁され、地域の将来を見据えて国道115号線が整備されました。福島ロータリークラブとも深い関わりがあり、パストガバナーでクラロン創業者の田中善六氏は、右耳の聴力を失ったことをきっかけに障がい者雇用促進をライフワークとし、また防衛協会副会長として自衛隊音楽隊の制服を寄贈するなど社会貢献に尽力しました。ガバナー在任中は須美子夫人が耳代わりを務め、夫婦二人三脚で奉仕活動に取り組みました。



田中氏が2002年に逝去された後、当時の福島駐屯地司令・上尾秀樹氏から「全国に31の女性による自衛隊協力会があるが、福島でも設立してはどうか」と提案があり、須美子夫人が設立を決意。当時、福島ロータリークラブには「魔女の会」と呼ばれる女性会があり、「私たちはお婆けではなく魔女なのよ」との言葉から名付けられた親睦会でした。この「魔女の会」を中心に他のロータリークラブのご婦人方や商工会議所女性会の協力を得て、2008年4月、全国で32番目の「女性による自衛隊協力会 花ももの会」が発足しました。会の名称は福島の県花である桃の花にちなみ名付けられ、設立記念として駐屯地内に花ももの苗木を植樹。春には美しい花を咲かせ、隊員の心を和ませています。

花ももの会は、ロータリーの理念と同じく無償の奉仕活動を基盤とし、隊員への支援・激励・交流・見学活動を通じて地域と自衛隊をつなぐ役割を担っています。また「女性自衛官との交流会」などの継続事業も行っており、コロナ禍で4年間中止されていましたが、2024年1月に再開し、女性自衛官18名、会員22名が参加。女性自衛官から「市民と交流する機会はこの駐屯地にはなく、とても癒され楽しかった」と喜びの声が寄せられました。

現在、花ももの会は64名の会員と共に活動を継続しており、初代会長の田中須美子氏をはじめ、第2代須田光代氏（商工会議所副会頭）、第3代二瓶恵子氏（花かんざし）、第4代手塚佳子氏（エルテイ）と受け継がれ、現在は第5代会長が奉仕の輪を繋いでいます。南ロータリークラブの女性会員も多数入会し、今後も地域と自衛隊の懸け橋として活動を続け、防衛意識の向上と隊員への支援・激励に努めてまいります。